

仰 峯 不 屈

本校の校訓は「仰峯不屈」です。この仰峯の対象の山は、本校のそして西濃地区の西方に聳える伊吹山をイメージしていて、「朝の陽にかがやく峯の伊吹山」と、校歌の冒頭にもその名が歌われています。

日本のほぼ中央に位置する伊吹山は、岐阜県と滋賀県の境界にあり、標高こそ 1,377 m で高さでは目立たない山ですが、日本の百名山の一つに数えられています。古くは「古事記」や「日本書紀」にもその名が見られる山で、古来より霊峰として信仰されたり、薬草や高山植物の宝庫として人々に親しまれています。また、その下の裾野には、徳川家康の天下獲りに結びついた合戦で有名な「関ヶ原」や、史跡「不破の関」があります。

その山容は大きくどっしりとしていて、骨太の男性的な印象です。中でも青空をバックにして落ち着いた安定感のある初夏の姿、そして厳しい寒さの中で白く凜と立っているその存在感のある冬の姿が、私は特に好きです。

もう40年以上前になる大学入学時に、同じ美術学科の仲間として出会い、大学卒業後は高校で教師をしている私の大親友がいます。彼は山梨県の高校で美術教師として長年勤め、現在は出身地に近い河口湖近くの高校で校長をしています。彼の地元は山中湖で、大学時代は彼の実家にお世話になり、仲間と何度か宿泊もしました。その山中湖はまさしく富士山のお膝元で、目の前には富士の威容が迫っていて、その冷厳な迫力に驚いたことを今も鮮明に覚えています。

たまたま仕事の関係で、先日、その彼と久しぶりに会うことができました。場所は北海道の札幌市内、テレビ塔の下です。時々電話や手紙でのやりとりはしていても、直接会うことはめったにありません。今回は直前に電話で連絡を取り合い、やっとで会えました。でも、長い年月を経ていても、一瞬で大学時代の仲間に戻ります。会ってすぐに今で言う「ため口」で話ができます。親友という付き合いの素晴らしさです。お互いに近況や仕事の話をしながら、大学時代の思い出を共有して楽しい充実した時を過ごしました。

その親友が校長として勤めている高校の校訓が、偶然にも本校と同じ「仰峯不屈」です。日本全国数ある高校の中で、あまりにも偶然が重なりすぎて、何か不思議さを通り越した驚きを感じます。私の知っている限り、本校と同じ校訓の高校は他にはありません。彼も私同様にその事にはびっくりしていました。



本校は伊吹山を仰峯しますが、親友の高校は天下の富士山です。全国での認知度、規模や高さでは当然負けますが、その歴史的な歩みや学術的価値、地域での愛着度は伊吹山も負けてはいません。そして何より、負け惜しみではなく本校の方が数年ですが歴史が長い。学校の設立年で言えば兄貴です。

青春時代の親友は、死ぬまで一生付き合える心の友であり、お互いを高めあえる良きライバルでもあり、損得に関係なく本音が話せる数少ない仲間です。そんな素晴らしい親友をこの東高で、そして自分のこれから目指す大学で、是非とも見つけ一生の宝としてください。

私も親友も、仰ぎ見る山はそれぞれ違っても、目ざす思いは一つです。

平成23年9月2日

大垣東高等学校長 浅野裕司

